

解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

歌う動物は多く存在する。と言ってもその多くは鳥類で、あとはクジラやイルカなどの水中で生きる哺乳類か、人間である。これらの生き物は発声器官の構造と、それが大脳皮質の支配を受けていることが相俟^①って発声を随^A一的にコントロールできる。

もちろん、多くの動物が音をコミュニケーションの手段として用いているが、他の霊長類を含めてその発声は反射的で、定型的なパターン（と言っても反射的な発声が笑い声や泣き声や苦痛への反応くらいしかない人間よりも遥かにレパートリーは多い）に則^②っている。つまり、美味しそうな餌を見つけて、いくらそれを独り占めにした^aいと思っても、反射的に「ここに美味しい食べ物がある」とのメッセージを発してしまうし、敵がいなのに仲間を騙^aしてやろうと「狼が来たー」というような叫びを上げることでもない（これはクジラや鳥は嘘をつけるということではない）。【イ】

そして、重要なことに、樹上生活をする生き物は鳥であれ霊長類であれ樹上ではかなり騒がしいが、何かの必要で地上に降りた時には、敵に狙われないようにピタッと鳴き止み沈黙を守る。ところが^②私たちヒトは地上で歌うのである。

私たちの先祖が地上に降り立った時にぺちやくちゃお喋りし続けたいたり、みんなで歌を歌っていた光景を想像すると微笑ましくなるが、^{*}ジョルダーニアによれば、ヒトが歌を歌う理由はそれほど

I なものではない。他の樹上生活者の動物たちは、地上では目立たず身を隠す戦略を採る訳だが、ヒトの祖先はむしろ集団で大声を出して敵を威嚇する戦略に出た。全員が同じピッチではなく複数の声部に分かれた方が音がより響いて実際の人数よりも多くいるように思わせられる。ジョルダーニアは、直立歩行も自分をより大きく見せるためで、また、全身の体毛が薄くなった人間の頭髮だけが濃いのも、より大きく見せるためだと言う（人類学などの復元図はまるで散髪直後のように描かれるが、実際には刈られていない大きなアフロヘアが頭に載っていたはずだと彼は言う）。【ロ】

地上に降りたヒトがどうやって肉食獣から身を守るか。そればかりではない。ヒトが肉食を栄養補給の中心にしていく過程では、実は自分たちで直接狩った動物の肉ばかりではなく、死肉食が重要であったという説がある。要するにライオンなどの肉食獣が仕留めた獲物を横取りするのである。【ハ】

集団で大声を出して威嚇して肉食獣を追い払う。だが、それだけではない。ジョルダーニアが重視するのは次のことである。音楽を

通じて集团的に一種のトランス状態に入り（「戦闘トランス」と言うらしい）、死への怖れをなくし、また、傷を負ってもその痛みを感じなくさせ、普段以上の力も出せるようになる（いわゆる

「Ⅱの馬鹿力」）。そうやってヒトは肉食獣と対峙し、食糧を確保し、生き延びることができた。音楽はヒトの生存に不可欠だったのだ。ただし、ラヴ&ピースという話にはならないのだが。【二】

ジョルダーニアが^③挙げるようにヴェトナムであれ、その後のさまざまな戦場であれ、多くの兵士たちが音楽の力を借りて戦闘へと赴いた。音楽と暴力のⅢは根源的なものであつて、これを避けて音楽について考えることなどできない。

ところで、ジョルダーニアは、^{*}ポリフォニーであれ、モノフォニーであれ、人間の歌は、交唱、歌い手のあいだの掛け合いを含むものが多いと指摘している。これは興味深い論点である。【ホ】

今一度、鳥やクジラに目を向けてみよう。これらの動物たちの歌には個性がある。その歌い手の表現となっている。クジラにはそれぞれの個体毎に個性的なパターンがあるらしく、場合によっては地球の裏側にいても（クジラの歌声は海中をかなり遠くまで伝わる）誰が歌っているのかが分かるとさえ言われる。つまり、人間以外の動物の歌、あるいはコミュニケーションでは、個体識別はできるの

である。

だが、おそらく人間の言語によってしか表現できないものがある。それは「私」である。そして、「私」の対話の相手、「私」の発話が差し向けられる相手である「あなた」である。

フランスの言語学者、エミール・バンヴェニストは、同じ人称代名詞として^Bクク^Bられているものの、一人称・二人称と三人称のあいだには断絶があることを指摘した。一人称はいま、まさに生起している発話（これをバンヴェニストは「デイスクール」と呼ぶ）の担い手であり、二人称はその発話が差し向けられている相手、そして、三人称はその発話の相関項である。いま二人称のポジションにいる者は、このデイスクールが途切れたなら、今度は「私は」と語り出し一人称のポジションに移行し、逆にいま一人称のポジションにいる者は「あなた」と語りかけられる二人称のポジションへと移る。それに対して三人称のポジションにいる存在はそのままでは（二人称が一人称へと反転するように）一人称にはなれない。

人間の言語の特徴は、このような（反転可能な）一人称・二人称の構造を持っているところにある。

あるいは、^{*}ミハイル・バフチンのモノローグ／Ⅳ、モノフォニー／ポリフォニーの議論を思い起こしてみよう。バフチンは

言語を、バンヴェニストならデスクールと呼ぶものから捉えていく。つまり、誰かから誰か、一人称から二人称への発話という出来事、社会性から理解する。意味は個人の中の心の中にあるのも脳のよ^⑤うな身体の中にあるのでもない。それは人と人のあいだにのみ存在する。しかも、(ジヨルダーニアとは違って) 彼にとって IV やポリフォニーとは暗黙の内に「あなたは私の意見には同意しないかもしれませんが……」という留^C保を含んでいる。つまり、世界の見え方は一つではなく、世界には(自分と) 異なる見解(オピニオン、ドクサ)が存在していることの承認である。

^{*} ドウルーズが述べるように、生き物にとって世界はサイン(記号)に満ちている。生きるとはサインを読み取り、また、サインの用法を習得することに他ならない。

だが、人間の学習に特徴的なのは、学ぶ者が教える者の意図、志向性を推し量るところにある。つまり、人間にとって学ぶということとは、一つには、「他者が私に何を望んでいるのか」を考えることであり、他者の欲望を知りたいという「他者の欲望への欲望」の主体となることでもある。

マイケル・トマセロはチンパンジーや幼児に対する実験を通して言語の起源を探る実験心理学者だが、彼は志向性の共有を人間的コ

ミュニケーションの根本的な特徴として捉える。そして、霊長類の身振りから人間の言語への進化の道筋を再構成しようとしている。そのトマセロが面白い指摘をしているのだが、現象の継起のパターンであれば動物にも学習できる。しかし、人間は現象の変化の背景に、それ自体は現象しない「意思」や「意図」を想定するとトマセロは言う。自然界において生き物たちは現象⇨サインをその背後に超越することなしに、その変化を関数的に理解し学ぶ。それに対して人間は現象⇨サインの背後にまで回り込み、その送り手の存在を想定し、その意図を推量する。これが世界を^⑥実体から構成されたものとして理解することであり、また、神話的な思考の基盤でもある。動物たちも、自分が追いかけている獲物が視界から消えたからといって追跡を止めたりしないし、獲物が出てくる場所を予想して先回りすることもできる。この世界に自分に見えないものが存在することは理解している。しかし、それは、本当は見えているものが何かによってシヤ^D蔽^⑦され隠されているだけであって、要するに人間以外の生き物にとって世界は現象、あるいは現象としてのサインだけから成り立っている。

それに対して人間は目に見えないもの、現象しないものに憑^⑧き纏^⑨われている。他者の心である。他者の心を見た人間はいないが、大

抵の人は他者の心の存在を疑っていない。確かにしばしば他者の心を、まるで身体というシヤ蔽物によって隠されているだけで、身体さえ取り除けば直に見ることができる、一つの「隠された見えるもの」のように思い描いてしまう。だが、身体から離れた魂を想像したとしても、それは一種の霊的な身体のようにイメージされるしかない。それというのも、もしも他者の心を本当に直接見ることができてしまったら、結局、それは私の心の中ではなく、私との差異によって規定されるはずの他者性は失われてしまうからである。つまり、「隠された見えるもの」に過ぎない「見えないもの」ではない、本当に「見えないもの」、現象でもサインでもないものとの関わりが人間的コミュニケーションの、とりわけ言語の根本なのだ。それは、人間の世界は現象⇨サインだから成るものではなく、現象としての世界全体をククル、世界の中には書き込まれていない境界線である「見えないもの」、言い換えるなら「ドクサ」に（亡霊のように）憑き纏われているということだ。

（田崎英明「言語の起源、歌の起源」より）

（注）

*ジョルダニア：ジョージアの民族音楽学者、進化音楽学者。

*ポリフォニーであれ、モノフォニーであれ、…ジョルダニアはポリフォニーを「複数の人間による合唱全般」、モノフォニーを「独唱」としている。

*ミハイル・バフチン：ロシアの文芸学者、美学者。

*ドゥルーズ：フランスの哲学者。

問一

傍線部A～Dのカタカナの部分に漢字で書いたとき、傍線部に同一の漢字を使うものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選び、その符号をマークしなさい。

A 随イ的

イ	一イ専心
ロ	天イ無縫
ハ	有イ転変
ニ	イ々諾々
ホ	感情イ入

B ククられて

イ	領地をカツ譲する
ロ	概カツして記す
ハ	師の徳をカツ仰する
ニ	グループの潤カツ油
ホ	カツ字離れ

C
留ホ

D
シヤ
蔽

イ 条件を譲ホする
ロ 改訂増ホ版の出版
ハ ホ身に徹する
ニ 泥棒をホ縛する
ホ ホ掛け船に乗る

イ シヤ程圏内に入る
ロ 識シヤの見解を聞く
ハ 単なるシヤ交辞令
ニ 交通をシヤ断する
ホ シヤ免を請う

問二 傍線部①、②の読みとして正しいものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選び、その符号をマークしなさい。

① 騙して

イ ノして
ロ ダマして
ハ カマして
ニ オドカして
ホ ソソノカして

② 纏われて

イ コわれて
ロ ソわれて
ハ マトわれて
ニ オソわれて
ホ サラわれて

問三 次の一文が入るべき箇所として最も適当なものを問題文中の【イ】～【ホ】から一つ選び、その符号をマークしなさい。

ここには歌と言語との差異の問題が関わっている。

問四 傍線部①「相俟って」の意味として最も適当なものを次のイ

ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 相殺して

ロ 相対化を繰り返して

ハ 互いに作用しあって

ニ 別々に働いて

ホ 渾然一体となって

問五 傍線部②「私たちヒトは地上で歌う」とあるが、「ヒト」が

歌を「歌う」のはなぜか。その説明として適当でないものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 複数の声部に分かれて歌うことによって、実際より多くの人数がいると敵に錯覚させることができるから

ロ 歌うことによって他の樹上生活者の動物と自分たちを差異化する、という生存戦略を採ったから

ハ 肉食獣から獲物を横取りするためには、歌が有効であつたから

ニ 集団で大声を出すことによって、地上の肉食獣を威嚇して身を護ろうとしたから

ホ 歌を通して集団的なトランス状態に入ることによって、敵との戦闘に向かうことができるから

問六 空欄Ⅰに入る言葉として最も適当なものを次のイ～ホから一

つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 意図的 ロ 局所的 ハ 合理的

ニ 牧歌的 ホ 必然的

問七 空欄Ⅱに入る言葉として最も適当なものを次のイ～ホから一

つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 死線 ロ 窮鼠 ハ 深夜

ニ 火事場 ホ 正直者

問八 傍線部③「ヴェトナム」とあるが、『輝ける闇』でヴェトナム戦争での取材体験を記し、他に『裸の王様』『日本三文オペラ』などの作品で知られる作家は誰か。次のイ～ホから一

つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 村上春樹 ロ 小林多喜二 ハ 林芙美子

ニ 坪内逍遙 ホ 開高健

問九

傍線部④「多くの兵士たちが音楽の力を借りて戦闘へと赴いた」とあるが、その歌意からアジア・太平洋戦争時に戦意高揚のための軍歌として用いられ、兵士に歌われた文言を、次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす (『平家物語』)

ロ ああ、弟よ、君を泣く、君死にたまふことなかれ。(与

謝野晶子)

ハ 人知れず 我こひ死なば あぢきなく いづれの神になき名おほせむ (『伊勢物語』)

ニ マツチ擦る つかのま海に 霧ふかし 身捨つるほどの 祖国はありや (寺山修司)

ホ 海行かば 水漬く屍 山行かば 草生す屍 大君の辺にこそ死なめ かへりみはせじ (大伴家持)

問十

空欄Ⅲに入る言葉として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 合理性 ロ 即効性 ハ 背反性

ニ 類似性 ホ 親和性

問十一

空欄Ⅳにはモノローグの対義語が入るが、その言葉として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ エピローグ

ロ アナローグ

ハ プロローグ

ニ イデオローグ

ホ ダイアローグ

問二 傍線部⑤「それは人と人のあいだにのみ存在する」とはど

ういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 言葉の意味は、「わたし」が一義的に確定できるわけではなく、発話を聞いた「あなた」との関係において生じるものであるということ

ロ 言葉の意味は、「わたし」や「あなた」が属する社会が決定するものであるということ

ハ 言葉の意味は、「わたし」が「あなた」の意見を予想しながら発話するという点において、常に二者の見解を折衷したものとなるということ

ニ 言葉の意味は、「わたし」と「あなた」の相関項である三人称のポジションにいる者にしか、客観的な把握ができないということ

ホ 言葉の意味は、「わたし」から「あなた」に発話者が交替すること、もともと意図されていたものとは異なったものになるということ

問三 傍線部⑥「世界を実体から構成されたものとして理解する」

とあるが、これに基づいた思考の具体例として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 西の空に黒い雲があるから、このあと一雨降るだろう。

ロ 部屋の電気がついていないので、彼は不在だろう。

ハ この匂いからすると、キッチンで作られているのはカレーだろう。

ニ 大けがをしてしまったのは、自分の悪行に対する天罰だろう。

ホ ツクツクボウシが鳴き出したので、夏はもうすぐ終わるだろう。

問五

問題文における「見えないもの」についての説明として適当なものを次のイ～ホから二つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 動物にとって「見えないもの」は「隠された見えるものの」としてのみ在る。

ロ 人間は本当に目に「見えないもの」である他者の心の存在を信じている。

ハ 人間がドクサに怯えるのは、「見えないもの」が「隠された見えるもの」ではないということを理解しているからだ。

ニ 動物がこの世界に「見えないもの」が存在することを認識しているかどうかは、わからない。

ホ 人間は、魂や亡霊が本当に目に「見えないもの」であることを知っているが、動物にはそうした知覚はない。

問五

問題文の内容と合致するものを次のイ～トから二つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 歌う動物の多くは反射的で定型的なパターンの発声を基本としているが、とは言えそれが嘘をつくための要件を即満たすという訳ではない。

ロ 鳥やクジラのような歌う動物の個体識別が可能であるのは、歌の掛け合いによって、それぞれに個性が生じるからである。

ハ バンヴェニストによれば、一人称と二人称は反転可能な関係であるが、三人称はそれらとは断絶しており、そのままでは一人称になることができない位相にある。

ニ バフチンは、個人の心や身体の中に言葉が蓄積されている、という通説を否定し、言語は文化によって保存されるものであると主張した。

ホ 人間にとっての学習とは、世界に満ちたサインから「他者の欲望への欲望」を読み取ることである。

ヘ どの生き物にとっても世界はサインに満ちたものであるが、動物は人間と違い、サインの背後に回り込まずに、その変化を関数的に理解し学ぶ。

ト 世界の中に書き込まれていない境界線としての「見えないもの」を感知することで、人は他者性を尊重して生きることが可能となる。

二 二次の文章は二位中将である狭衣が内裏からの帰途、女車に遭遇する場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

たそがれ時のほどに、二条大宮などわたりに会ひたる女車、牛の引き替へし、遠きほどよりかと思ゆる。側の物見少し開きたるより、円頭まるがしらのほの見ゆるは、この御車を見るなるべし。はやくやり過しつれば、あやし、ひが目かと思すに、供なる童の持たる物やしるからん、この御供なる隨身など見つけて、かやかやと追ひ留むるに、え逃げで引き留められぬ。若き隨身ども、いたう咎めかかりて、^⑤「下簾かけたまへるは僧綱そうかうにこそはおはすらめ。さはありとも、しはし留めては過したまはで、競ひてはやり来る。誰ばかりにかおはすらん」と荒らかに問ふに、「仁和寺の某阿闍梨あせしの御車にて、母上の物へ渡りたまふなり。^⑨」にて、心にまかせず走りはべるを」とわななき出づるを、「いで、さは、げに尼君かと見ん」とて簾を引き上ぐるに、法師の降り走りて、顔を隠して逃ぐるを、^⑪「この尼君はなど逃ぐるぞ」と追ひつきて走るを、御車を留めたまひて、「かくなせぞ」と言はせさせたまへば、法師をば逃がして、牛飼童を捕へつつ、「何者ぞ」と問へば、「仁和寺に某威儀師ゑいぎしと申す人なり。年頃、懸想したまへる人の、太秦うづまさに日頃籠りたまへるが、

出でたまふとて車借りたまへれば、喜びながら奉りたまひて、姫君一人を盗みて、率ておはするなり。法師だてら、かくあながちなるわざをしたまへば、仏の憎みたまひてかかるめを見せたまふなり。荒牛にてはあり、押し留めても寄るべきを、年頃の思ひかなひて急ぎたまふほどに、女車とぞ見るらん、ただとくとく遣れ、と責めたまへば、師には従ふ、といふ法文を、僧のあたりにて年頃ありつるしるしには聞き知りさぶらひて、のたまふままに走らせはべりつるなり。今よりはさらさらにこの師に^⑬「II」とて、いと恐ろしう悲しと思ひたるに、いとをかしうて許してけり。

君には、「しかじかなん申しつる。車にはまことに女の侍りつるなめり。人もみな逃げぬ。かくてうち捨てては、さすがにいとほしうこそさぶらひぬべけれ」と申せば、^⑭「何しにかは、かかるわざをばしつる。常に制することを聞かで。行くべからん所はいづくにてかあらん。いかでか、さは捨てん。その童に問ひて送れ」とのたまひて過ぎたまふ。

〔狭衣物語〕より

(注)

*牛の引き替へし…交代用の牛を引き連れていて。

*僧綱…官位の高い僧侶。

*威儀師…仏事作法の指南役の僧。

*太秦…広隆寺。

問三

傍線部③「ひが目」、⑨「わななき」、⑩「いで、さは」、⑬「法師だてら」の意味として最も適当なものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選び、その符号をマークしなさい。

問一

傍線部①「側の物見」の説明として最も適当なものを次のイ

～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 大路に設けられた棧敷

ロ 警備のための監視台

ハ 道路脇にできた見物人の列

ニ 車内をのぞく野次馬の群れ

ホ 牛車ののぞき窓

③ ひが目

イ 鋭い視線
ロ 見間違い
ハ つぶらな瞳
ニ まずい方法
ホ ひねくれた態度

問二

傍線部②「この御車を見るなるべし」の解釈として最も適当

なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 女車を見ているに違いない

ロ 女車を見ているのかもしれない

ハ 女車に目を向けるべきだ

ニ 狭衣の車を見ているに違いない

ホ 狭衣の車を見ているのかもしれない

へ 狭衣の車に目を向けるべきだ

⑨ わななき

イ 弁解して
ロ 涙を流して
ハ 嘘をついて
ニ 震えて
ホ 居直って

⑩ いで、さは

イ さて、それならば
ロ 出ろ、すぐに
ハ いや、違う
ニ そうか、いや待て
ホ おい、もしや

⑬ 法師だてら

- イ 法師が群れて
- ロ 法師の役得で
- ハ 法師を装って
- ニ 法師に倣って
- ホ 法師の分際で

問四

傍線部④「供なる童の持たる物やしるからん」の解釈として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

- イ 供を務める童の持ち物が僧具とはっきり分かったのだろうか
- ロ 供を務める童の所持品から女が同乗するとうかがい知れたのだろうか
- ハ 供として童を従えていることから僧が乗っていると判明したのだろうか
- ニ 供を務める童の携行品が美しくて目を惹くものだったからだろうか
- ホ 僧に付き添う童としては分不相応な品を持っていたからだろうか

問五

傍線部⑤「え逃げで引き留められぬ」の現代語訳として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

- イ 逃げたので引き留めようとした
- ロ 逃げたものの引き留められた
- ハ 逃げる事が出来ず引き留められた
- ニ 逃げも引き留めもしなかった
- ホ 逃げる事が出来ずお引き留めになった

問六

傍線部⑥「咎め」、⑧「阿闍梨」の読みとして正しいものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選び、その符号をマークしなさい。

⑥ 咎め

- イ いさめ
- ロ いじめ
- ハ とがめ
- ニ おさめ
- ホ はづかしめ

⑧ 阿闍梨

- イ あしやなし
- ロ あとなし
- ハ あじやり
- ニ あぐり
- ホ あとり

問七 傍線部⑦「誰ばかりにかおはすらん」の解釈として最も適当

なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

- イ どんな高貴な人のもとに向かつておられるのか
- ロ どれだけの人数が乗っておられるのか
- ハ たったお一人でお乗りになっているに違いない
- ニ どれほどの身分のお方が乗っていらっしゃるのか
- ホ しかるべき姫君も同車しているのであろう

問十 傍線部⑫「かくなせそ」、⑬「侍りつるなめり」の文法的説

明として最も適当なものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選び、その符号をマークしなさい。

⑫ かくなせそ

- イ 副詞＋副詞＋動詞＋助動詞
- ロ 副詞＋動詞＋助動詞
- ハ 動詞＋副詞＋動詞＋助動詞
- ニ 動詞＋副詞＋動詞＋助動詞
- ホ 動詞＋動詞＋助動詞

問八 空欄Ⅰに入る言葉として最も適当なものを次のイ～ホから一

つ選び、その符号をマークしなさい。

- イ 牛飼童 ロ 隨身 ハ 威儀師
- ニ 尼君 ホ 荒牛

⑬ 侍りつるなめり

- イ 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
- ロ 動詞＋助動詞＋助動詞
- ハ 動詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
- ニ 動詞＋動詞＋助動詞
- ホ 動詞＋名詞＋助動詞＋助動詞

問九 傍線部⑪「この尼君はなど逃ぐるぞ」には隨身のどのような

気持ちが含まれているか。最も適当なものを次のイ～ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

- イ 尼君がなぜ法師に変装していたのかという疑念
- ロ 尼君が乗っていると嘘をつかせた法師へのからかい
- ハ 尼君がいつの間に法師と入れ替わったのかという驚き
- ニ 姫君を置き去りにする法師への義憤
- ホ 法師が狭衣の車を追い越した無礼に対する怒り

問十二 傍線部⑭「年頃の思ひ」とは誰のどのような思いか。最も

適当なものを次のイ〜ハから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 牛飼童の姫君に対する恋心

ロ 牛飼童の太秦参籠を願う道心

ハ 牛飼童の威儀師に対する忠心

ニ 牛飼童の威儀師に対する反抗心

ホ 威儀師の姫君に対する恋心

ヘ 威儀師の太秦参籠を願う道心

問十三 傍線部⑮「僧のあたりにて年頃ありつるしるしには聞き知

りさぶらひて」とあるが、誰が聞き知ったのか。最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 威儀師 ロ 牛飼童 ハ 狭衣

ニ 隨身 ホ 仏

問十三 空欄Ⅱに入る言葉として最も適当なものを次のイ〜ホから

一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 使はれはべらなん

ロ 使はれはべりなん

ハ 使はれはべりけん

ニ 使はれはべらじ

ホ 使はれはべらばや

問十四 傍線部⑯「何しにかは、かかるわざをばしつる」と言った

ときの狭衣の心情の説明として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 厄介事を招いた随身の言動を不快に感じている。

ロ 姫君を窮地から救った随身の機転を賞賛している。

ハ 法師が取った色めいた態度にあき果てている。

ニ なぜ法師が姫君を置き去りにしたのか訝しんでいる。

ホ 姫君との思いがけぬ出会いをうれしく思っている。

問十五 『狭衣物語』は平安時代に書かれた物語である。同じく平安

時代に成立した作品を次のイ〜ホから一つ選び、その符号をマークしなさい。

イ 吾妻鏡 ロ 伊曾保物語 ハ 大和物語

ニ 平家物語 ホ 万葉集